

◆ 基本目標2 みんなで取り組む青少年の育成 ◆

基本的施策 1

地域と共にある学校づくり



整理番号	2-1-1	特色ある学校づくりの充実と 教職員の研修の場の提供を推進します	事業区分(方向性)
担当課	教育総務課		C: 継続

現状と課題

各学校は、児童生徒や地域の実態を十分踏まえ、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開し、活力ある学校づくりをめざすとともに、地域に根ざした開かれた学校づくりの一助とするため、「特色ある学校づくり支援事業」を行っています。

市は、教職員の自主研究を促し、学校の教育力の向上と地域に開かれた学校づくりを図るとともに、その成果を本市の教育の振興に役立てることを目的として、研究校を指定しています。また、学校の組織的な研究に基づく研究授業に対して指導主事を派遣し、教職員への指導・助言を実施しています。

教職員が意欲的に自主研究に取り組めるために、教職員が自主的に指導法や児童生徒理解について学べる学校全体の組織的な取組の推進が求められています。

事業の方向性

教職員が目標に向かい、意欲的に研修に取り組めるよう、学校全体の組織的な研究支援を進めていきます。

具体的な取組

- ・ 県や市の指導主事による助言の機会の提供
- ・ 「特色ある学校づくり支援事業」の充実
- ・ 「いしかわ道徳推進事業」等の県指定研修の推進
- ・ 市の指定研修の推進
- ・ 地元の大学と連携した教育活動の実施(SDGs教育・ネット対策講座・防災教育・特別支援教育等)

整理番号	2-1-2	ゲストティーチャーを活用し、地域の歴史・文化・産業等をテーマにした学習を推進します	事業区分（方向性）
担 当 課	教育総務課		C：継続
現状と課題			
<p>歴史・文化・産業等をテーマにした学習では、「古い街並みを生かした北国街道」や「市指定文化財の二日市荒川神社の絵馬」「野々市じょんから節」等、文化財や年中行事の学習を通して、「地域の人々の願いが込められ受け継がれていること」や、「地域の発展に尽くした先人がさまざまな苦心や努力により生活の向上に貢献したこと」などを理解することができます。また、本市の産業の学習を通して、「伝統的に受け継がれてきたものや新たに作り出したものなど多岐に渡ること」や、「作り手の願いと共に広く県内外や海外にまでつながっていること」を理解することが期待できます。</p> <p>中学校における職場体験学習「わく・ワーク体験」では、さまざまな事業所での体験学習を通して、働く人の願いや苦勞、喜びを実感し、地域社会や未来をよりよくするための担い手となる意識をはぐくむことが期待できます。</p> <p>児童生徒が地域の歴史・文化・産業等をテーマにした学習に主体的に取り組めるよう、教科等の学習と総合的な学習の時間を関連させた学習計画の工夫を図ることが大切です。その際、地域の方々に、「学校の応援団」として、ボランティアでゲストティーチャーやサポート役を務めてもらい、授業等の支援を求めることも大切です。</p>			
事業の方向性			
<p>地域社会と連携した教育課程を推進し、児童生徒が地域の歴史・文化・産業等をテーマにした学習を通して考えを深められるようにします。</p> <p>児童生徒が地域に愛着が持てるよう、総合的な学習の時間等で、地域をテーマにした探究型の学習を取り入れた地域とともにある学校づくりを推進します。</p>			
具体的な取組			
<ul style="list-style-type: none">・教科等の学習と総合的な学習の時間を関連させた学習計画の工夫・小学校社会科資料集「わたしたちの野々市」の作成・「わく・ワーク体験」の推進・広く地域人材を獲得するために、庁内の関係各課や校区内の団体との連携・「学校の応援団」の推進			



小学校社会科資料集
「わたしたちの野々市」



中学校「わく・ワーク体験」

整理番号	2-1-3	積極的な学校公開等による地域に開かれた			事業区分（方向性）
担 当 課	教育総務課	学校づくりを推進します			C：継続
現状と課題					
<p>市立小中学校では、各学期に1回、学校公開を実施し、保護者や地域住民が学校を訪問し、学校の日常を見ることができる機会を提供することにより、学校への理解を深めてもらうとともに、学校の教育活動に関する情報を提供しています。</p> <p>また、学校ホームページの公開、学校広報の地域配布により、学校の教育方針や教育活動の状況などを家庭や地域住民に向けて情報発信しています。</p> <p>保護者や地域住民に学校の教育活動に対する理解をより深めてもらえるよう今後も引き続き、情報発信を推進する必要があります。</p>					
事業の方向性					
<p>地域に開かれ信頼される学校を実現するため、学校は保護者や地域住民の意見や要望を把握し、家庭や地域社会と連携協力していくことが必要であり、的確な情報発信また情報収集を進めていきます。</p>					
具体的な取組					
<p>・ 学校公開の実施</p>					
成果指標名		単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
各学校の公開回数		回／年	3	3 (維持)	教育総務課調べ

整理番号	2－1－4	見守り隊など、地域での子どもの安全を守る取組を 推進します	事業区分（方向性）
担 当 課	教育総務課		C：継続
現状と課題			
登下校時における子どもの安全を確保するため、地域の方や保護者がボランティアとして活動する見守り隊の活動を推進しています。今後は、より多くの方に、地域の子どもの安全を見守る意識を持ってもらい、見守り隊の担い手不足を解消する必要があります。			
事業の方向性			
登下校の見守り隊の活動を持続するため、より地域や保護者に協力を仰ぎ、登下校時における日常的な安全確保に努めます。			
具体的な取組			
・ 子どもたちと見守り隊との交流の促進			



見守り隊



通学路安全点検

整理番号	2-1-5	コミュニティ・スクールの活動の充実を図ります	事業区分(方向性)	
担 当 課	生涯学習課 教育総務課		A：拡大・重点化	
現状と課題				
<p>近年、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。これを踏まえ、地域の人々が学校運営に参画する「学校運営協議会」を市立小中学校に設置し、学校が抱える課題の解決について話し合い、地域総がかりで子どもたちの成長を支えていく必要があります。</p> <p>また、市民に対する学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の浸透と学校・地域づくりに必要な人材確保が求められます。</p>				
事業の方向性				
<p>家庭・地域・学校が一体となって子どもたちをはぐくむ「地域と共にある学校づくり」を推進し、学校や子どもが抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを整えます。そのことにより、質の高い学校教育を実現し地域の教育力の向上を図ります。</p> <p>本市では、学校運営協議会と学校と地域人材をつなぐ役割を担う地域学校協働本部による体制を構築し、コミュニティ・スクール活動を推進します。</p>				
具体的な取組				
<ul style="list-style-type: none">・ 学習活動の支援にかかる地域人材の確保・ 地域の人々と連携した授業の実施				



ゲストティーチャーと連携した授業(1)



ゲストティーチャーと連携した授業(2)

◆ 基本目標2 みんなで取り組む青少年の育成 ◆

基本的施策 2

青少年の健全育成



整理番号	2-2-1	青少年健全育成の課題について関係機関相互の協力により調査・研究に努めます	事業区分(方向性)
担 当 課	生涯学習課		C：継続
現状と課題			
<p>青少年問題協議会では、青少年の非行やいじめ、性被害等を未然に防止することなど健全育成のために、白山警察署や石川中央保健福祉センターをはじめとした各種関係機関や団体と連絡調整を行い、さまざまな問題について調査・研究を行っています。また、積極的に情報共有を行うことが、市内における青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の適切な実施につながっています。</p> <p>青少年を取巻く環境は日々変化していくため、青少年問題協議会がその変化に取り残されないよう、各種関係機関や団体と積極的に情報共有を行っていく必要性があります。</p>			
事業の方向性			
<p>青少年問題協議会を通して、青少年の取り巻く環境について関係機関や団体相互が確実に把握し、市内における青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の適切な実施を期するために調査・研究を行い、課題解決に向けた方向性を定めます。</p>			
具体的な取組			
<p>・ 青少年問題協議会の開催</p>			

整理番号	2-2-2	青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から 守る取組を推進します	事業区分（方向性）	
担 当 課	生涯学習課		C：継続	
現状と課題				
<p>少年育成センターは、地域の青少年の非行やいじめ、性被害等を防止するとともにその健全な育成を図ることを目的とした機関で、青少年の問題行動の抑止と有害環境から青少年を守るため、PTA、教員、地域の育成関係者等で構成された育成指導員が中心となって、市内の街頭巡視活動を行っています。</p> <p>また、急速にＩＣＴ化が進み子どもたちも簡単にインターネットを利用できる環境となり、インターネット上のいじめや有害情報の青少年への影響が危惧されていることから、少年育成センターにおいてインターネット上の巡視活動を行い、学校をはじめ各関係機関と情報共有しています。</p> <p>大型店舗の移転や新規店舗の出店など、地域の商業環境は常に変化していることから、新規店舗とは協力体制の構築を進めるとともに、青少年が新たに集まるような場所を把握していく必要があります。また、インターネット上では、次々と新しいサービスが提供されているため、巡視方法について検討していく必要があります。</p>				
事業の方向性				
<p>常に変化していく市内の商業環境を把握し、地域の店舗との協力体制を構築し、子どもたちを見守る体制づくりをしていきます。また、街頭巡視活動などを通して、青少年の健全育成及び保護者の意識向上に努めていきます。</p> <p>S N Sなど子どもたちが日常的に使用しているサービスの使用状況や危険性を確認し、関係機関と共有できる体制を維持していきます。</p>				
具体的な取組				
<ul style="list-style-type: none">・ 街頭巡視活動の実施・ インターネット巡視活動の実施				

整理番号	2-2-3	事業区分(方向性)
担 当 課	生涯学習課	
青少年に次代を担う者としての自覚・自立を促します		C：継続
現状と課題		
<p>人生の分岐点に立つ14歳の少年少女が、自ら志を立て、次代を担う者としての自覚と希望を持つための機会として立志式を実施しています。また、式典後には、近年の社会情勢の急激な変化の中、さまざまな悩み等を抱える思春期の子どもたちに適した講演会を行っています。</p> <p>成人式では、厳粛な式典を実施することで、参加者の新たな門出を祝福するとともに、大人としての自覚を促しています。さらに、成人式実行委員として参加した人は、事前の準備から作り上げる経験を通して、社会参加へとつながるきっかけを得ることができます。</p> <p>今後は、急激な社会情勢の変化や青少年の意識の変化を踏まえ、次代を担う者としての自覚・自立を促すための啓発方法について検討する必要があります。</p>		
事業の方向性		
<p>青少年に次代を担う者としての自覚・自立を促すため、市民大学校事業(ののいちコミュニティカレッジ等)による講座の開催や地元の大学の協力を得ながら啓発活動を行っていきます。</p>		
具体的な取組		
<ul style="list-style-type: none">・ 立志式、成人式の開催・ 成人式実行委員による成人式の企画・運営の支援・ 青少年を対象とした講座、講演会等の開催		



立志式



成人式

整理番号	2-2-4	さまざまな体験活動を通し、 青少年の豊かな心を育成します	事業区分（方向性）	
担 当 課	生涯学習課		C：継続	
現状と課題				
<p>青少年を取り巻く環境が急激に変化していく社会にあって、青少年の生活習慣の乱れや希薄な人間関係、自然と触れ合う機会の減少などさまざまな問題が指摘されており、地域の人々と触れ合う中で、生きた経験を学ぶ機会の充実が求められています。</p> <p>青少年が日常生活では体験できないような社会活動に参加することで、自らを律しつつ、他人と協調し、人を思いやる心や感動する心が養われることから、地域の人々の協力により、自然体験教室やイベント運営を行うボランティア活動を行っています。</p> <p>今後この活動を充実させるために、自然体験教室では児童が安全に自然と触れ合える場所や方法を検討していく必要があります。また、イベント運営に携わるボランティアについては、活動の知名度を高め、さらに魅力ある活動となるよう適切な支援を行う必要があります。</p>				
事業の方向性				
<p>自然体験教室やボランティア活動については、子どもたちに取り組む趣旨を周知し、興味を持って参加してもらえるような企画を今後も継続して実施していきます。</p> <p>このほか、他の行政機関などが行う国際交流事業をはじめとした広域的な事業についても市民に紹介していきます。</p>				
具体的な取組				
<ul style="list-style-type: none">・ 自然体験教室の開催・ ボランティア団体の魅力を伝える情報を市広報や市ホームページに掲載・ 市立小中学校等へのボランティア募集チラシの配布・ ボランティア活動体験のレポート等を通じた活動内容の周知				



自然体験教室



ボランティア体験

◆ 基本目標2 みんなで取り組む青少年の育成 ◆

基本的施策 3

学び合う、支え合う
地域社会づくり

整理番号	2-3-1	家庭教育事業の充実に向けた連携及び支援体制を整えます	事業区分(方向性)
担当課	生涯学習課 子育て支援課 健康推進課		C: 継続

現状と課題

近年、都市化や核家族化など、さまざまな要因により家庭の教育力が低下していると言われており、家庭教育への支援の必要性が高まっています。

家庭教育推進協議会では、関係機関と連携を図り、保護者と子どもの豊かな育ちを支援しています。家庭・地域・学校が一体となって家庭の教育力の向上をめざし、家庭教育の重要性を広く市民に啓発しています。また、市民で構成される家庭教育サポーターは、地域による子育て支援として、保護者のための相談活動を行っています。

しかし、核家族化やライフスタイルの多様化、地縁的なつながりの希薄化が進む中、悩みを抱えた家庭が孤立しやすいことも考えられます。引き続き、学校や子育て支援センターなど地域の関係機関と連携しながら、各家庭での子育ての状況を把握し、家庭教育サポーターなどを活用して、実情に合った家庭教育への支援を継続していくことが必要です。

事業の方向性

効果的な家庭教育の事業を推進するため、行政部局と地域の関係機関との連携及び支援体制を整えます。課題や施策に応じて関係者を集めた協議会を開催し、課題解決に向けた方向性を定めます。

また、家庭教育サポーターの体験談や活動内容を積極的に発信することで、魅力を伝え、人員の確保に努めていきます。

具体的な取組

- ・ 家庭教育推進協議会の開催
- ・ 子育て支援活動を行う家庭教育サポーターの人員確保及び育成

成果指標名	単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
家庭教育サポーターの人数	人	21	30	

整理番号	2-3-2	家庭の教育力を高めるため、 保護者に向けた啓発に努めます	事業区分(方向性)
担当課	生涯学習課 教育総務課		A: 拡大・重点化

現状と課題

家庭教育は、保護者が第一義的責任を有しています。しかし、近年では家庭環境の多様化に伴い、子育てについての不安や孤立を感じる家庭や基本的生活習慣の習得などに課題を抱える家庭が増加しており、家庭の教育力の低下が指摘されています。そうしたことから、本市では家庭の教育力の向上につながる啓発の取組を進めています。

家庭の教育力を高めるには、保護者の子育てに対する意識の向上が必要であり、家庭教育学級の開催など、保護者に対する学習機会の提供を充実させる必要があります。また、家庭不和や児童虐待などの問題も子どもの成長に大きな影響を与えることから、さまざまな家庭に応じた、保護者の子どもへの関わり方について啓発していくとともに、情報発信方法について検討していく必要があります。

事業の方向性

各学校、PTA、公民館をはじめ各関係機関との協力を図りながら、保護者が家庭教育の大切さを再認識するための啓発活動や学習機会を提供するとともに、インターネットやチャット機能を利用したネットいじめ等を未然に防ぐため、ネットリテラシーに関する啓発も行います。

また、専門機関や関係団体等が提供する子育てに役立つ情報をもとに、保護者や地域の方への啓発及び情報発信を積極的に行います。

具体的な取組

- ・ 幼児家庭教育講座の開催
- ・ 就学時の健康診断を活用した子育て講座の開催
- ・ 家庭教育学級の開催
- ・ 思春期子育て講座の開催
- ・ 保護者向け講座の参加者アンケートの実施
- ・ 「ののいち家族ふれあいの日 NOネット・NOゲーム・NOテレビ」の推進
- ・ 家庭教育啓発資料の作成(野々市市家庭教育指針「ののいち元気家族三か条」など)
- ・ SNS等を活用した啓発及び子育て情報の発信
- ・ ネットリテラシーに関する講演会の開催(ネットいじめ、犯罪被害等の防止、身体への影響など)
- ・ 公民館をはじめ各関係機関と連携した家庭の教育力を高めるための講座の開催

成果指標名	単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
ノーネット・ノーゲーム・ノーテレビデーの認知率	%	76	80	PTAアンケートより
公民館等と連携した講座の開催数	回/年	—	10	

整理番号	2-3-3	放課後子ども教室など、地域での安全で安心な 子どもの居場所づくりの取組を推進します	事業区分(方向性)
担当課	生涯学習課		A: 拡大・重点化

現状と課題

近年、核家族化及び地域における地縁的なつながりの希薄化などにより、家庭の教育力の低下が指摘されることから、地域全体での家庭教育の支援の必要性が高まっています。そこで、地域の人々の参画や地元の大学の協力を得て、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、社会性や自主性及び創造性等の豊かな人間性をはぐくむことを目的として、学習活動やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取組を実施しています。

放課後子ども教室では、各教室の特色を生かした活動を通して子どもと地域住民との間につながりが生まれました。引き続き、子どもや子育て家庭を取り巻く環境の変化に順応した安全・安心な子どもたちの居場所の確保が求められています。

また、土曜日等(土曜日、日曜日、長期休業期間等)の教育活動では、地域・民間企業・団体等の多様な経験や技能を持つ人々の協力により、特色ある学習プログラムを実施しており、子どもたちが自分の将来を考え、仲間とともに力を合わせ、自ら学ぼうとする力をはぐくむことをめざしています。

事業の方向性

放課後子ども教室及び土曜日等の教育活動の運営スタッフや講師については、地域の方に関わってもらえるよう、コミュニティ・スクールによるボランティア登録制度を活用します。このようなことを通して、多種多様なプログラムを子どもたちに提供し、子どもたちの学びを支えるとともに、安全・安心な居場所づくりに取り組んでいきます。

具体的な取組

- ・ 放課後子ども教室の運営
- ・ 土曜日等の教育活動の実施
- ・ 地域人材を活用した活動の実施

成果指標名	単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
土曜日等の教育活動の参加人数	人/年	174 (R1)	200	こどもミュージアム等

※ R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、事業内容を制限したため、R1年度の数値を記載。

整理番号	2-3-4	「“ののいちっ子を育てる”市民会議」の 活動を支援します	事業区分(方向性)
担当課	生涯学習課		C: 継続

現状と課題

青少年を取り巻く環境が急激に変化していく社会にあつて、健全育成における課題はますます広範囲化、複雑化していることから、家庭や学校、地域社会や関係機関・団体がそれぞれの活動を通じて相互に理解し連携を深め、市民総参加による健全育成を図ることが重要となっています。

町内会やPTAをはじめとした各種団体からなる“ののいちっ子を育てる”市民会議は青少年の健全育成について広く市民に啓発するため、時代の変化に対応しながら活動しています。

「愛と和 ののいち5万人あいさつ運動」では、通学路や学校の玄関前などで児童生徒たちと市民が和やかにあいさつを交わすことを趣旨とした運動であり、まち全体で運動が盛り上がるような体制づくりについて支援していく必要があります。

「子どもと大人のまちぐるみ美化清掃」は、子どもと大人が共に地域の清掃活動を行うことにより、子どもの社会参加活動を促すとともに、大人にとっては子どもとの関わりを深めることを目的としています。併せて、この活動を通して、子どもの郷土への愛着と地域住民の美化意識を高めます。多くの市民に本来の事業の趣旨を理解してもらい、参加してもらえるように活動を周知していく必要があります。

また、“ののいちっ子を育てる”市民会議はこれまで各団体と協力して、子どもと保護者に対しICT機器における危険性を啓発する事業を行っており、時代に応じた対応が求められています。

事業の方向性

今日の子どもたちを取り巻く社会環境は多様化しているため、“ののいちっ子を育てる”市民会議の活動を支援し、時代の変化に対応した子どもたちの育成活動を促進します。

具体的な取組

- ・「愛と和 ののいち5万人あいさつ運動」の支援
- ・「子どもと大人のまちぐるみ美化清掃」の支援
- ・ICT機器がもつ危険性をテーマとした研修会の開催の支援

成果指標名	単位	現状値(R2)	目標値(R13)	指標の説明
美化清掃の参加者数	人/年	9,533 (R1)	11,000	子どもと大人のまちぐるみ 美化清掃

※ R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、事業中止のため、R1年度の数値を記載。

整理番号	2-3-5	青少年の健全育成に取り組む地域社会活動を 支援します	事業区分(方向性)
担 当 課	生涯学習課		C：継続
現状と課題			
<p>青少年の健全育成の推進を目的とし、子ども会やPTAをはじめとした各種の社会教育団体がそれぞれに自立した活動を行っています。市ではこうした団体の活動を支援しています。</p> <p>近年は都市化や核家族化により、地域のつながりの希薄化が懸念されていることから、各種団体の活動を通して、子どもたちが地域の大人とのつながりや郷土へ愛着を持ち、地域で子どもたちを育てるという気運を高めていくことが必要となります。</p>			
事業の方向性			
<p>子どもたちが地域の人々との関わりの中で健やかに成長していくための取組が継続されるように、各団体の活動を支援し、必要に応じて新規の補助についても検討していきます。</p>			
具体的な取組			
<p>・ 団体の活動の支援(単位組織を含む子ども会、PTA連合会、スカウト育成会等)</p>			



スカウト育成会